

社会的養護のもとで暮らした若者のための 夢の奨学金

事業紹介

社会的養護のもとで暮らした若者たちの進学を
経済的・精神的な面で支援する奨学金事業を行っています。

支援の仕組み

経済的な支援

給付型

学部
指定なし



授業料



生活費



住居費

精神的な支援

中退者・
既卒も可



ソーシャルワーカーによる
コミュニケーション・面談

2021年度のTOPIC

7期生認定証 授与式



奨学生に
手渡された認定証

7期生の認定証授与式が3月17日、対面とオンラインのハイブリッド形式で行われ、笹川会長から一人ひとりに認定証が授与されました。奨学生は「同じ境遇の子どもたちの力になるために、知識や技術を学びたい」「将来は子どもの命を助けるための医療に関わりたい」など学生生活での目標、将来の夢を語りました。

2021年度活動報告会が22年3月18日に開催され、卒業する13人の奨学生がこれまでの学生生活を振り返り、学んだことやこれからの進路、後輩へのメッセージ等を発表しました。

看護師、パティシエ、研究職、児童福祉施設への就職など、それぞれの道に進む奨学生に対して、担当のソーシャルワーカーからも一言ずつお祝いと励ましの言葉が贈られました。



2021年度 活動報告会

奨学生 からの声



西萌華さん 22歳

夢の奨学金を受けることができ、経済的な部分で本当に助かりました。それまで、アルバイトは二つ掛け持ちしていたのですが、大学進学となるとそれでも足りないくらいでしたから。

安心感を持って勉強できることもありがたいことです。勉強に十分な時間を取ることができます。

ソーシャル ワーカー からの声

施設を出て、一度社会人になってから酪農を学ぶ大学に通っている奨学生がいます。その子に「ずっと酪農が夢だったの？」と聞くと、「夢とはちょっと違う。ずっと興味はあったけど、奨学生になって、はじめて夢になった」と言うんです。実際、奨学金がなければ現実的ではなく、夢にもなりませんから。

支援してくださっている皆さまには「お金と一緒に皆さまの気持ちも子どもたちに届けてますよ」とお伝えしたいです。

社会福祉法人
大阪児童福祉事業協会
アフターケア事業部
藤川澄代さん

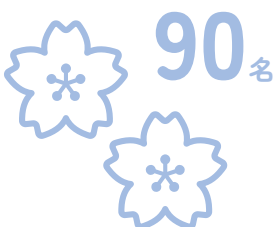
寄付者 からの声



片方善治様
(工学博士 94歳)

私が5歳の時、父が死亡し家は貧しくなりました。小学校卒業後は就職と決めていた私に、担任教師が奨学金による進学の道を導いてくれました。以来、米国留学や工学博士号授与までの私の学歴は奨学金歴でもあります。

その後、特許・著作・企業顧問等で得た収入を後輩の奨学金への寄付にと積み立てました。その私財が5,000万円になったので、日本財団夢の奨学金事業に寄付しました。寄付実現を喜んでます。



数字で見る2021年度の実績

2021年度は5名(累計90名)の奨学生を支援。奨学生同士のネットワークも拡大中。

事業担当者より皆さまへ

皆さまからお預かりしたご寄付が、夢に向かい前に進むとする若者へ、大きな力となって届いています。



公益事業部
国内事業開発チーム
秋山・高橋